

名古屋市港区野跡町・潮風町（鴨浦地区）の港湾で発見されたウミニナ *Batillaria multiformis* (Lischke, 1869)

川瀬 基弘⁽¹⁾ 横井 敦史⁽²⁾

⁽¹⁾ 愛知みずほ大学人間科学部 〒467-0867 愛知県名古屋市瑞穂区春鼓町2-13

⁽²⁾ 名古屋市立大学大学院理学研究科 〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

Batillaria multiformis found in the ports and harbors of Noseki-cho and Shionagi-cho (Kamoura district), Minato-ku, Nagoya, Japan

Motohiro KAWASE⁽¹⁾ Atsushi YOKOI⁽²⁾

⁽¹⁾ Department of Human Science, Aichi Mizuho College, 2-13 Shunko-cho, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi 467-0867, Japan

⁽²⁾ Graduate School of Science, Nagoya City University, 1 Yamanohata, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi 467-8501, Japan

Correspondence:

Motohiro KAWASE E-mail: kawase@mizuho-c.ac.jp

要旨

名古屋市港区野跡町・潮風町（鴨浦地区）の港湾の貝類調査を実施したところ、絶滅危惧ⅠA類のウミニナ *Batillaria multiformis* とフトヘナタリ *Cerithidea moerchii*, 絶滅危惧Ⅱ類のヒロクチカノコ *Neripteron* sp., 準絶滅危惧のウネナシトマヤガイ *Neotrapezium liratum* の棲息を確認した。このうちウミニナは、20年以上ぶりに棲息が確認された。

序文

2023年7月26日、名古屋市で近年（20年以上にわたり）生貝が確認されていない貝類の情報提供があった。提供された写真からこの貝類が名古屋市で絶滅危惧ⅠA類に選定されているウミニナと判断できたので、急遽2023年8月31日にウミニナの棲息確認調査と同所的に棲息する貝類の簡易的な調査を実施したため、その結果について報告する。

調査方法

名古屋市港区野跡町・潮風町（鴨浦地区）の港湾の潮間帯において、2023年8月31日に貝類調査を実施した。調査は図1の潮間帯で実施し、調査当日の最大干潮時（12時15分、11 cm）に主に目視により貝類を確認した。転石については全面をくまなく観察して付着生物を調べ

た。生貝を確認するとともに、各種1～3個体を採集し、液浸標本または乾燥標本として保管した。作製した標本をもとに種まで同定した。

結果

調査地は東西および北側がコンクリート護岸となっており、北側はコンクリート護岸の手前に天然石による石積み形成されていた。さらにその正面にはカキ殻が大量に堆積し、礫や砂泥が混在するカキ殻を主体とする潮間帯が形成されており、干潮時にその一部が露出し、満潮時には調査地が完全に水没する環境であった（図2）。カキ殻はマガキ *Magallana gigas* で構成され、大部分は死殻であるが生貝も含まれており、自然に形成されたカキ礁の残骸と浚渫等により人為的に大型重機等で積み上げられたカキ殻が混在していた。生貝で発見された貝類

川瀬・横井（2024） 名古屋市港区野跡町・潮風町（鴨浦地区）の港湾で発見されたウミニナ *Batillaria multiformis* (Lischke, 1869)



図1. 調査地点

丸枠は調査範囲を示す。

本図は地理院地図（国土地理院）を加工して作成

は、ヒロクチカノコ、カワザンショウ、フトヘナタリ、ウミニナ、イボニシ、コウロエンカワヒバリ、マガキ、ウネナシトマヤガイの8種であり、他に、イシダタミ、アラムシロ、ハイガイ、ヤマトシジミ、アサリ、ハマグリ、オキシジミ、ソトオリガイの8種を死殻で確認した。以下に生貝で発見された8種を記録する。なお、以下解

説文中に記載した名古屋市と愛知県のランクは名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課（2015）と愛知県環境調査センター（2020）による。

1. ヒロクチカノコ（図3）

Neripteron sp.

名古屋市および愛知県とともに絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。調査地北側の石積み上で少数個体が岩石に付着していた。

2. カワザンショウ

Assiminea japonica E. von Martens, 1877

北側の石積み上で岩石に付着していたが個体数は少なかった。マガキに付着する個体も観察できた。

3. フトヘナタリ（図4）

Cerithidea moerchii (A. Adams, 1855)

名古屋市で絶滅危惧Ⅱ類、愛知県で準絶滅危惧に選定されている。北側の石積み上で稀に岩石に付着していた



図2. 干潮時の調査地

が個体数は極めて少なかった。名古屋市では、これまで庄内川河口干潟でしか棲息が確認されていなかったが、今回の調査により本調査地でも本種の棲息を新たに確認できた。

4. ウミニナ（図5）

Batillaria multiformis (Lischke, 1869)

名古屋市で絶滅危惧IA類、愛知県で準絶滅危惧に選定されている。北側の石積み最下部の岩石の隙間で砂礫に殻が多少埋もれるかたちで多数棲息していた（図6）。個体数は多いが、調査地における分布は上述のとおりで局所的であり、カキ礁やカキ殻が堆積する場所においては本種を確認できなかった。

5. イボニシ

Reishia clavigera (Küster, 1860)

カキ礁やカキ殻が堆積する場所の転石裏面に付着する形で発見された。産卵中の個体が多く、20～30 cm四方の転石裏面に複数個体ずつまとまって発見され、転石裏面には本種の卵塊が見られた（図7）。名古屋市では名古屋港ガーデンふ頭で発見されている（中嶋ほか、2023）。

6. コウロエンカワヒバリ

Xenostrobus securis (Lamarck, 1819)

本調査地ではカキ殻に付着またはカキ礁に随伴する個体を多数確認した。オーストラリア・ニュージーランド原産の外来種で（木村、2002）、現在では伊勢・三河湾の内湾奥から湾口部にかけて広く分布しており、愛知県には1980年代に侵入したと推定されている（岩崎ほか、2004；愛知県移入種データブック検討会、2012）。

7. マガキ

Magallana gigas (Thunberg, 1793)

調査地はカキ礁の残骸で形成されており、生きている個体も含まれていた。全体のカキの個体数が莫大なため、生貝も多数確認できた。

8. ウネナシトマヤガイ

Neotrapezium liratum (Reeve, 1843)

名古屋市では準絶滅危惧に選定されている。カキ礁内またはカキ殻に付着する形で棲息するが個体数は少なかった。

考察

調査地は港湾の一角に位置し、全面がコンクリート護岸され、カキ殻の死殻が堆積した場所が大部分を占め、これに礫や砂泥が混じるものの、暗黒色の還元的な底質環境が形成されており、一見すると環境が悪く、貝類相は貧弱に見える。しかし、北側のコンクリート護岸から連続する石積みには還元的な底質環境が優占しておらず、石積みの隙間に堆積した砂泥が貝類にとっての好環境として機能しており、絶滅危惧IA類のウミニナとフトヘナタリや絶滅危惧II類のヒロクチカノコの棲みかを形成していると考えられる。ウミニナについては、2004年時点において、「名古屋市内においては、藤前干潟で死殻がわずかに採集されるに過ぎなく、近年生貝が全く採集されず、絶滅した可能性が高い」とされている（名古屋市動植物実態調査検討会、2004）。当時、実際に現地調査を実施しても、稀に古い死殻が見つかるか、或いは比較的状态の良い死殻の場合はヤドカリに利用されていた。この状況は2015年においても全く変わらず（名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課、2015）、これらの状況から、名古屋市においてウミニナは絶滅した可能性が高まった。しかし、今回の発見によって、狭い地域ではあるが、名古屋市において小規模な個体群のウミニナが生き残っていることが明らかになった。また、藤前干潟や庄内川河口域において、稀に死殻だけが見つかるにも関わらず、生貝が発見されないのは、本調査地で生存し続けた個体群の死滅個体が、近隣の庄内川河口や天白川河口などに漂着していたのではないかと考える。また、周辺河川の河口域で稀に発見されていたウミニナの死殻の供給源は本調査地であったと考えることができる。

一方で、カキ殻が優占する大部分では、ウミニナ、フトヘナタリ、ヒロクチカノコを確認することができなかったが、部分的にカキ礁が形成され、コウロエンカワヒバリガイをはじめカワザンショウ、イボニシや準絶滅危惧のウネナシトマヤガイがカキ礁に随伴する形で発見された。人工的な環境ではあるが、このように複数の絶

滅危惧種を含む貝類相が形成されていることは特筆に値する。現時点で、名古屋市内でウミニナが生き残っている場所は本調査地のみであり、埋め立てなど港湾の管理には十分な配慮が必要である。

港湾の大部分は浚渫や埋め立てにより形成された海域であり、干潮時においても底質が干出する場所は少なく、大部分は干潮時においても水面下である場所が多い。このような場所ではコンクリート護岸に付着する貝類相を調べても、在来種であるマガキを除けば、コウロエンカワヒバリガイ、ムラサキイガイ、ミドリイガイ、イガイダマシなどの外来種が大部分を占めることが多い。そのため本調査地も同様の環境と見なされており、これまでに十分な調査が実施されていなかった。今回の調査により、今後は、ほとんど干出しないような港湾環境においても詳細な調査を実施すべきであることが示唆された。なお、今回はウミニナの確認を中心とする簡易的な調査しか実施しておらず、詳細な調査により棲息する貝類の種数が増える可能性があるため、今後、本調査地を含む同様の環境における定期的な追加調査の実施が望まれる。

謝辞

ウミニナの情報を提供していただいた名古屋市の関係者の方々にこの場を借りてお礼申し上げる。

引用文献

- 愛知県移入種データブック検討会. 2012. 愛知県の移入動植物—ブルーデータブックあいち2012. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋. 225 pp.
- 愛知県環境調査センター. 2020. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2020—動物編—. 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 名古屋. 768 pp.
- 岩崎ほか. 2004. 日本における海産生物の人為的移入と分散：日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から. 日本ベントス学会誌, 59: 22-44.
- 木村妙子. 2002. コウロエンカワヒバリガイ～二次的な移出が心配される内湾の外来二枚貝. 日本生態学会(編). 外来種ハンドブック, pp. 188. 地人書館, 東京.
- 名古屋市動植物実態調査検討会(監). 2004. レッドデータブックなごや2004—動物編—. 名古屋市環境局環境都市推進部環境影響評価室, 名古屋. 368 pp.
- 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課. 2015. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2015—動物編—. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋. 504pp.
- 中嶋清徳・中野秀彦・春日井 隆・木村妙子・木村昭一. 2023. 伊勢湾最湾奥に位置する名古屋港ガーデンふ頭で採集された軟体動物. なごやの生物多様性, 10: 111-123.

川瀬・横井（2024） 名古屋市港区野跡町・潮風町（鴨浦地区）の港湾で発見されたウミニナ *Batillaria multiformis* (Lischke, 1869)



図3. ヒロクチカノコ



図4. フトヘナタリ



図5. 蓋を閉じたウミニナ



図6. 転石の砂礫に埋もれるウミニナ



図7. イボニシとその卵塊